

今日の道徳科の時間

3年

よいと思ったことは
教材「よわむし太郎」

この教材は

主人公の太郎は、村人から「よわむし太郎」と呼ばれています。子供たちからかわれても、いたずらをされても、にこにこ笑っています。あるとき、殿様が狩りにやってきて、子供たちが大切にしていた白い大きな鳥を矢で射ようとしてしましました。太郎は、大きな手をいっばいに広げて殿様の前に立ちほだかり、鳥を撃たないように訴えます。

心優しい太郎が、殿様から白い鳥を守る姿を通して、本当の心の強さや勇気ある行動について考えさせます。人として行ってよいこと、いけないことの区別をつけ、自らが正しいと信じることに従って行動しようとする心情を育てていきます。

育てたい子どもの心



周りの友達の考えに流されたり、強い立場の人に従ったりするのではなく、自分自身でよいこと、悪いことの判断をしていきたいな。



自分が正しいと思うことをすすんでできるようにしたいな。誰かがよくないことをしているときには、止められるようにしたいな。

子どもの心を育てるために

- 正しい行いをするということについて、「自分だったらどうか」と考えさせることで、より実感的に捉えられるようにします。
- 正しいことを行おうとするときに必要な勇気や、本当は怖いとってしまう弱さ、その弱さを乗り越える人としての強さなど、話し合いを通して多様な考えに気付かせます。
- ワークシートに考えを書くことによって、より深く考えさせます。

学習の流れ

- ① 教材名「よわむし太郎」から想起することを出し合い、教材への関心を高める。
- ② 教材文を読んで、太郎の心の動きについて考える。
- ③ 自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする。
- ④ よいと思ったことを行うときに、大切なことはどのようなことか考える。

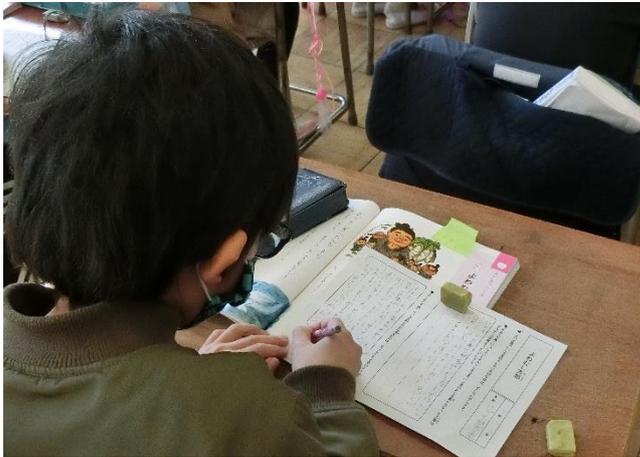
道徳地区公開講座週間 3年生

よいと思ったことは
教材 「よわむし太郎」

正しいと思ったことを勇気をもって
行動することについて話し合いました。



相手が殿様でも、太郎は
全力で、大切な鳥を守り
たいと思っている。子供
たちが悲しむ姿を見たく
ない。



本当は怖いけれど、逃げ
ずに立ち向かっている太
郎はすごい。



太郎のことを最初はよわ
むしだと思っていたけれ
ど、本当は、正しいこと
ができる心の強い人だと
思った。